

セキセイインコ (*Melopsittacus undulatus*) の翼端部に発生した肉芽腫性疾患に デキサメタゾンを使用した 1 例

村上 彬祥^{1), 2)}

大相模動物クリニック¹⁾, ○○動物病院²⁾

【はじめに】

鳥類における肉芽腫性疾患には、感染性疾患、腫瘍性疾患、黄色腫などがあるが、副腎皮質ステロイド薬に反応する肉芽腫性疾患の報告は少ない。哺乳類における副腎皮質ステロイド薬に反応する肉芽腫性疾患としては、無菌性肉芽腫および化膿性肉芽腫症候群、リンパ節炎、異物肉芽腫、また脂肪組織炎や皮膚炎、免疫性疾患などがあげられる。今回確定診断には残念ながら至らなかったが、翼端部に発生した肉芽腫性疾患において副腎皮質ステロイド薬により奏功した症例に遭遇したため、経過報告と検討を目的とし報告する。

【症例と経過】

セキセイインコ、1 歳齢、雌。1 週間前よりの左翼下の自咬を主訴に来院した。一般身体検査において左翼下の脱羽、糜爛および痂皮を認めた。発情やストレスなどによる自傷行動を疑診し、ヒドロキシジン塩酸(10mg/kg, q12h)、アモキシシリン(20mg/kg, q12h)、ネクトン BIO®(0.04g, q12h)の投薬および定期的な酢酸リュープロレリン注射などを実施するも改善は認められなかった。第 146 病日、自咬に続発する出血や嘴の過長、慢性換羽を認め肝臓疾患を疑い、肝細胞の保護および免疫賦活療法を目的に AHCC®(ヘルスエイジ, 60mg/kg, q24h)の投薬を開始した。第 160 病日にはカラーの着用を併用し経過を維持していた。第 341 病日、翼端部の肥厚が顕著に認められた。肥厚部位に対して細針吸引細胞診を実施した所、無菌性の炎症および成熟リンパ球様細胞の浸潤を認めた。そのため、アルジオキサ酸(20mg/kg, q24h)を併用しつつ、デキサメタゾン(0.33mg/kg, q24h)の投薬を開始した。第 349 病日には肥厚の軽減が認められた(図 2)。その後一時的に認めた胃腸障害により休薬した際には肥厚の増大を認めたが、第 423 病日にはデキサメタゾンを q72h にて再開し、第 443 病日には肥厚は 50%以下のサイズに減少した。第 599 病日、右肢端部に腫瘤を認めたため、血液検査を実施したのち、イソフルレンによる鎮静下にて炭酸ガスレーザーを使用し生検を実施したが病理組織学的診断結果は化膿性出血性皮膚炎であった。

【考察】

経過および病理組織学的検査から○○○○、……

コメントの追加 [村上1]: 鳥種のあとに学名をイタリック体にて記載する。

コメントの追加 [村上2]: 表題: MSP ゴシック(ポールド)にて記述。

コメントの追加 [村上3]: 著者名: 右揃え、MS 明朝にて記述。

コメントの追加 [村上4]: 著者らが同一所属の場合は必要ないが、異なる所属がある場合は上付き文字にて記述。

コメントの追加 [村上5]: 所属名: 右揃え、MS 明朝にて記述。異なる所属を示す場合、所属の次に上付き文字にて 1), と記述

コメントの追加 [村上6]: 緒言などについては【】内に太字にて記載する。

コメントの追加 [村上7]: 要旨本文: 和文は MS 明朝、英文は Century にて記述。太字、アンダーライン等の文字飾りは使用しない。

コメントの追加 [村上8]: 薬剤については商品名でなく薬剤名での記載をお願い致します。

コメントの追加 [村上9]: 薬剤を記述した場合、薬用量を記載する。